

「谷の町 渋谷」

その名が示す通り、渋谷はたくさんの坂が交差する「谷の町」。渋谷駅を谷底に配し、そこから宮益坂や道玄坂が丘の上に伸びています。渋谷は渋谷川や宇田川の流れによって削られた谷ですが、その谷の中にも富ヶ谷や鶯谷町など、局地的な谷が存在します。

いつもの道を、ちょっと地形を意識しながら歩いてみると、何か新しい発見があるかもしれません。

「渋谷読書人」は

渋谷に関わる人全てに向け、
おすすめ本の情報を発信して
いく、渋谷区立図書館が発行
する定期刊行物です。



『東京「スリバチ」地形散歩』

皆川 典久／著 宝島社 2021

古い地名は土地の形に由来するものが多く、東京の地名には渋谷や四谷、谷中など、「谷」の付くものが多くあります。そんな谷間や窪地を「スリバチ」と名付け、探索と記録を行った「東京スリバチ学会」が、地形を切り口とした東京の魅力を紹介。



『渋谷に里帰り』

山本 幸久／著
新潮社(新潮文庫) 2011

大学卒業後、食品会社の営業マンとしてなんとなく過ごしていた稔。急に退社することになった先輩から引き継いだエリアは、小学生の頃の引っ越しにより鬼門となっていた渋谷だった。200件もの取引先を抱えた稔は、今日も宮益坂を下り、道玄坂を上り、谷の町・渋谷を駆け巡る！

渋谷読書人

2022年4月・5月号

発行 / 編集

渋谷区立図書館

株式会社図書館流通センター

発行日

2022年4月

渋谷区立中央図書館

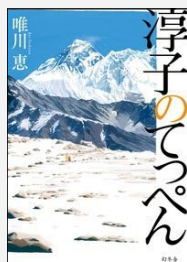
電話 3403-2591

住所 渋谷区神宮前1-4-1



はじめる はじまる

なにか新しいこと、はじめてみませんか？



『淳子のてっぺん』
唯川 恵／著 幻冬舎 2017

男女差別が色濃い時代に女性として世界ではじめてエベレスト登頂に成功した登山家・田部井淳子をモデルにした長編小説。目標に到達するために一歩を踏み出す。小さな一歩でも、歩を進めることで必ず夢は叶う。そんな淳子の「てっぺん」とは？



『焚火読本』
笠倉出版社 2021

電気やガスを利用して快適な生活が送れる現代において、焚火の知恵と技術を得ることは、いざ電気、ガスが使えなくなった時に、大きな助けとなるかもしれません。本書では、焚火の基礎知識や利用方法、使用する道具などを紹介。



『ピオレタ』
寺地 はるな／著 ポプラ社 2015

婚約者に突然別れを告げられ泣いていた妙は、道端で董さんに拾われ、彼女の雑貨屋「ピオレタ」で働くことに。そこは「棺桶」なる美しい箱を売っている少し風変わりな店で…。自分の人生を自分の足で歩く人の背中をそっと押してくれる一冊。



『はじめてのセルフリノベ』
長野 恵理／著 エクスナレッジ 2020

気軽にできるプチリノベアイデアから木工での家具の製作、壁や床の貼り替えまで、はじめての人でも失敗しないためのポイントやコツを伝授してくれます。あなたも自分の部屋を自分の手で生まれ変わらせてみませんか？



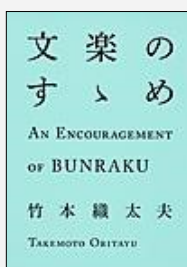
『すべては今日から』
児玉 清／著 新潮社(新潮文庫) 2015

洋書を読み耽り、週末には読書三昧の休日を楽しんだという俳優・児玉清が記した書評とエッセイを収めた一冊。名優であり、愛書家でもあった著者の原点が垣間見えます。



『キッチンからはじめる再生栽培』
原 由紀子／監修 ブティック社 2021

毎日食べる野菜を自宅で栽培できたらいいのに…と思ったことはありませんか？ 野菜の廃棄部位をリサイクルしてもう一度野菜を育てるという再生野菜「リボベジ」(Reborn Vegetable)なら、節約もでき、有事の際の食料調達にも役立つかもしれません。



『文楽のすゝめ』
竹本 織太夫／監修 実業之日本社 2018

大阪生まれの伝統芸能・文楽の楽しみ方を、大阪生まれの竹本織太夫がやさしく解説。文楽の基礎知識をはじめ、観劇に役立つ江戸時代の常識、豆知識などを、写真とイラスト付きで紹介。文楽にまつわる本や映像の案内も付いていて、入門編にうってつけです。



『トキワ荘マンガミュージアム』
コロナ・ブックス編集部／編集 平凡社 2021

「鉄腕アトム」「ドラえもん」「仮面ライダー」「おそ松くん」。昭和、平成、令和の時代を通して、子どもから大人まで魅了し続ける、国民的キャラクターたち。そのはじまりには、トキワ荘の存在が欠かせません。昭和を代表するマンガ家たちが若き日々を送ったトキワ荘の魅力のすべてがこの一冊に。



『解きたくなる数学』
佐藤 雅彦／著 大島 遼／著 廣瀬 隼也／著 岩波書店 2021

「ピタゴラスイッチ」制作メンバーが作った、論理的思考が身につく数学問題集。「鳩の巣原理」「三角不等式」「数学的帰納法」などを魅力的な写真とグラフィックで表現した、全23問を収録する。



『米澤屋書店』
米澤 穂信／著 文藝春秋 2021

ミステリ作家・米澤穂信を形作った本たちとは？ 米澤穂信がはじめて小説を世に出してから20年の間に書いてきた本にまつわる文章をまとめる。有栖川有栖との対談も収録。



『老後とピアノ』
稲垣 えみ子／著 ポプラ社 2022

50歳で会社を早期退職。ずっとやりたかったピアノに挑戦！ エゴを捨て、自分を信じ、「いま」を楽しむことの幸せを、ピアノは教えてくれた…。老後を朗らかに生きていくエッセイ。



『ふしぎな日本人』
塚谷 泰生／著 ピーター・バラカン／著 筑摩書房 2022

日本の集団主義は、世界にも稀な高度労働集約で行われる稲作にこそ起源がある。ヨーロッパでビジネスを展開してきた塚谷泰生と、日本人を知り尽くすピーター・バラカンが、日本文化の面白さや特殊性を縦横無尽に語り尽くす。